

# 桂坂だより 特別号



HP 携帯版  
令和8年 1月23日  
京都市立桂坂小学校  
校長 中村 佳明

＜学校教育目標＞『その手で未来を創りあげる 桂坂の子  
～かかわる、つながる、そして、かがやく～』  
合言葉は「キラりんく」

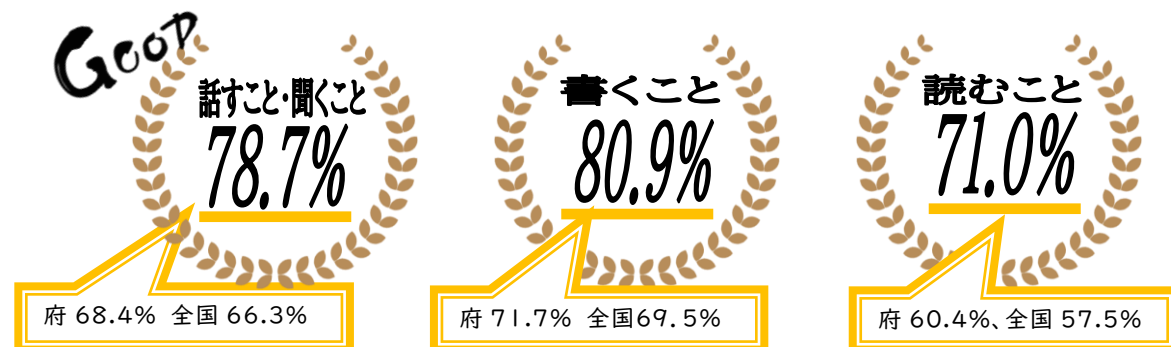
## 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果より

全国の小学6年生、中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」（令和7年4月）の結果について、12月に京都市教育委員会から報告がありました。

本調査では、「国語」「算数」「理科」の3教科のテストとあわせて、家庭での過ごし方や児童の学習に対する意識等を問う「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」も実施されました。その結果について京都府や全国の状況と比較しながら、本校6年生児童の学力と生活習慣の関係などの状況について分析し、まとめたものをお伝えします。

## 国語科について

＜正答率…本校平均:78% 京都府平均:69% 全国平均:66.8%＞



どの観点においても、全国平均を上回りました。

「話すこと・聞くこと」では、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうか」をみる問題の正答率が全国平均より14%高い結果となりました。「話す・聞く」力は、本校のグランドビジョンで掲げる「対話共感力」に深く関わる部分です。テストで測定できる力は、ほんの一部分。授業や日常生活の中でも豊かなコミュニケーション力を発揮できるよう、取組を続けてまいります。

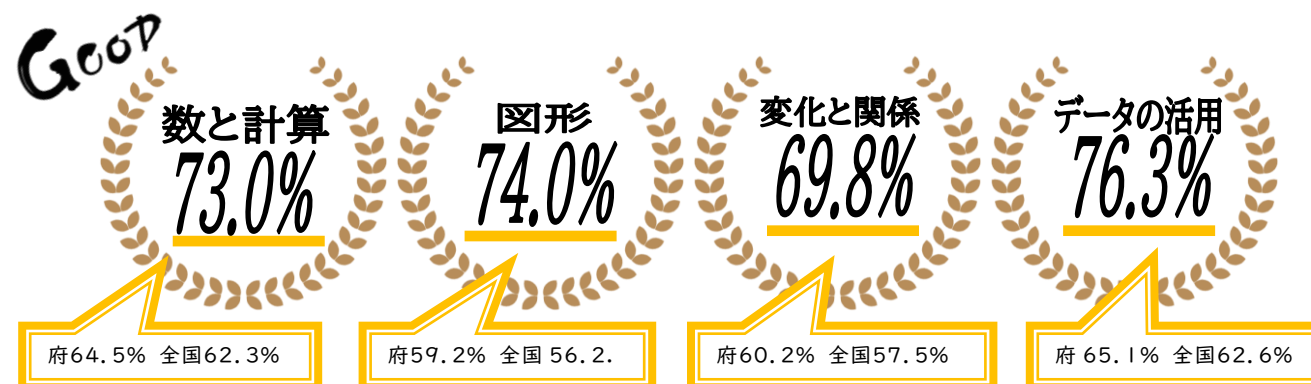
「書くこと」では、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうか」をみる問題で、正答率が93.3%と、全国81.6%を大きく上回りました。また、無回答の児童は0%でした。児童に「書く力」が育ってきていると言えます。記述問題に対して諦めずに取り組む姿から、グランドビジョンに掲げる「レジリエンス」が育まれていると言えるでしょう。

「読むこと」では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうか」をみる問題の正答率が高い結果となりました。インターネットの普及により情報があふれる中で、必要な情報を取捨選択する力を育てることはますます重要です。



## 算数について

＜正答率…本校平均:72% 京都府平均:60% 全国平均:58%＞



どの観点においても、全国平均を上回りました。

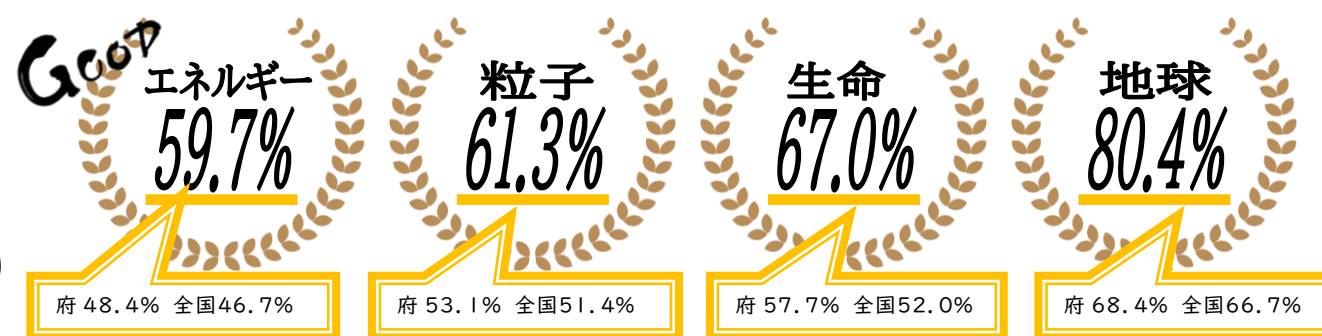
「図形」では、全国平均を大幅に上回る結果となりました。特に「五角形の面積を求めるために分割し、面積の求め方を書く」問題では、全国平均37%に対して、本校では68%の正答率でした。基礎的な問題だけではなく、応用問題に対しても、立式する論理的な思考力が育ってきていることがうかがえます。

一方で、「変化と関係」では、全国平均を上回っていたものの、全体の正答率から見ると、もう少し正答率を伸ばせたかもしれません。「変化と関係」の中でも、例えば「10%増量とは何倍のことか」のような「割合」にかかわる問題は、日常生活に生かすことのできる領域ですので、今後も繰り返し扱い、理解を深めていきたいと思います。



## 理科について

＜正答率…本校平均:70% 京都府平均:60% 全国平均:57.1%＞



どの観点においても、全国平均を上回りました。

特に「おしべとめしべの受粉」「2個の乾電池のつなぎ方」に関する問題では、全国平均の正答率を20%以上上回る結果となりました。実験や観察の基礎・基本が身につき、知識・理解が定着していると言えるでしょう。

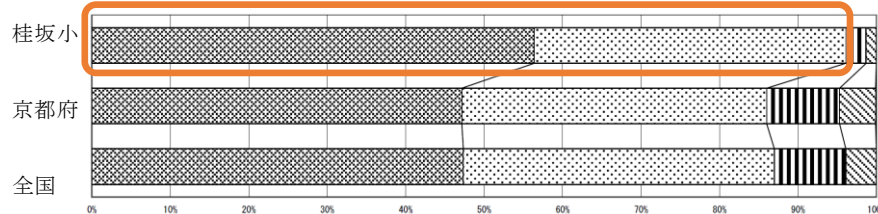
一方で、「粒子」に関する問題のうち、「水の温度変化による体積の変化」では、根拠を示して述べるのが難しかったようです。科学的な見方・考え方を働かせ、根拠をもって説明する力を育てるために、問題解決のプロセスを重視し、結果をもとに「考察」する場を適切に設けていきます。



## 児童質問紙調査より

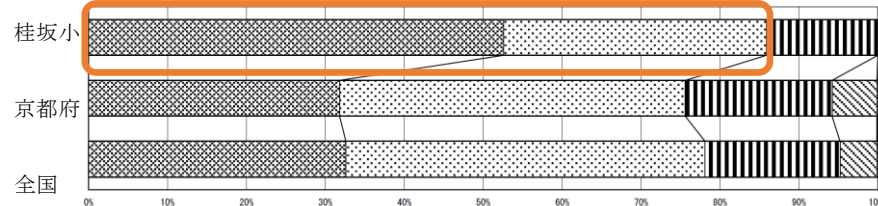
児童質問紙調査の中から桂坂小学校の傾向が顕著に表れていた項目を紹介します。

自分には、よいところがあると思いますか。



96.1%

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



85.9%

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」という肯定的な回答をした割合は、合計で 96.1%でした。この結果から、自己肯定感がしっかりと育まれていることが見えてきます。ご家庭においても、子どもの良さを認め、努力や成長を価値付けてくださっているのではないのでしょうか。グランドビジョンマップでもお示ししている「This is カツラザカ」の一つ「自己有用感」「自己効力感」の高揚を今後も大切にしていきます。

また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」という質問に対して、同様に肯定的な回答をした割合は 85.9%でした。「意見を合わせる方が楽だ」という傾向がある中、自分の考えをもち、他者の考えと比べて話し合いに参加できているということは、とても頼もしいことです。子どもたちが様々な意見に触れることを通して、考えを広げていくことにつながります。

これらの結果は、子どもたちが自分のよさを認め、他者との違いを楽しみながら学び合う姿勢を身に付けていることを示します。こうした力は、これからの社会の中で必要とされる自分の人生を舵取りする力の基盤となります。

## 問題の紹介と解説～算数「変化と関係」～

実際の問題〈記述式〉を右ページに紹介します。この問題を正解するには、以下の 2 つの条件が必要です。

記号イ、ウと選び、次の①②の全てを書いている。

- ① 使いかけのハンドソープの重さを求める式や言葉
- ② 使いかけのハンドソープの液体の重さと 1 プッシュ分のハンドソープの重さをを用いて、あと何プッシュできるのかを求める式や言葉

この問題では、記号を正しく選び、理由を 2 つ書くことが求められます。

結果は、60%の子どもが両方できましたが、16%は理由が不十分、24%は記号選びから誤っていました。本校正答率 60.0% 全国正答率 48.7%

「理由を書く力」は、考えを整理し、筋道を立てて説明する力につながります。この力は算数だけでなく、国語や理科などすべての教科で重要です。特に算数科で問題を解く際には、立式だけを行うのではなく、理由も書けるように引き続き指導を続けてまいります。

今の世の中では、情報を取捨選択する力や、指示を理解して正確に表現する力が求められています。こうした力は、将来の社会で必要な力であり、学校の学び全体を通して育てていくものです。今後も、さまざまな教科でこれらの力を伸ばしていきますので、引き続きご理解ご協力をお願いします。

令和 7 年度 全国学力学習状況調査〈算数〉解説より

- (2) 学校の手洗い場に、別の容器に入っている使いかけのハンドソープがあります。

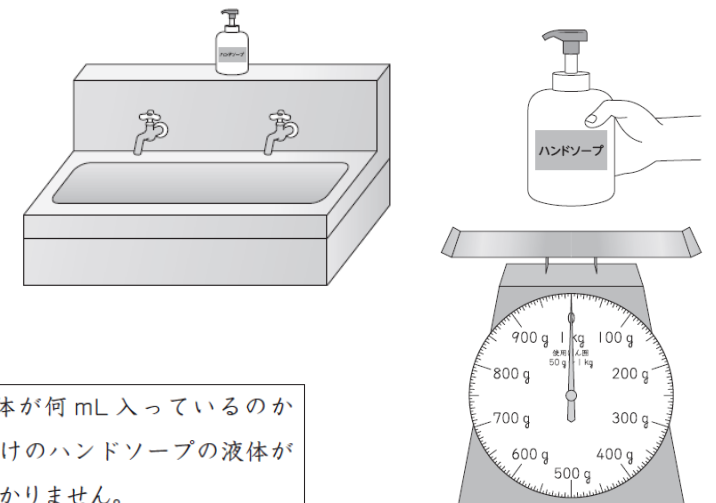
次に、あさひさんは、そのハンドソープを空になるまで使うとしたら、あと何プッシュすることができるのかを考えています。



新品だったらハンドソープの液体が何 mL 入っているのかは、はっきりわかるけれど、使いかけのハンドソープの液体が何 mL 入っているのかは、すぐにはわかりません。



ハンドソープの液体の重さをはかって調べられないでしょうか。



小算-19

このハンドソープの液体と容器を合わせた重さは 270 g でした。

使いかけのハンドソープが空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るためには、270 g の他に何がわかればよいですか。

下の ア から エ までの中から 2 つ選んで、その記号を書きましょう。

また、その 2 つと 270 g を使って、あと何プッシュすることができるのか、その求め方を式や言葉を使って書きましょう。

ア	新品のハンドソープの重さ	360 g
イ	ハンドソープの容器の重さ	60 g
ウ	1 プッシュ分のハンドソープの液体の重さ	3 g
エ	かんなさんが 1 日に手を洗う回数の平均	7 回

## おわりに

今回の結果から、本校児童の学力・学習状況調査については、基礎学力を身に付けるとともに、表現力や活用力を伸ばしていると分析できます。自己の生き方に対して前向きに捉える姿勢が育ってきていることも見てとれます。本校が学校教育目標で掲げる「その手で未来を創りあげる桂坂の子」という姿に確かな歩みを進めていることを感じ取れる結果が出ており、今後の本校教育活動を進めていくにあたって大きな励みになります。

【参考資料】

京都市教育委員会  
令和 7 年度「全国学力・学習状況調査の結果」について

